

## 〈市長への手紙〉から

能 登 久 喜

### ① はじめに

近年、都市公聴活動は市政懇談会、市政モニター、世論調査、市長へ手紙を出す運動など各都市で多彩に展開される傾向にあります。

これは、都市自体のめまぐるしい発展と、都市における市民生活が多様化され、複雑化されるにしたがって、これまでの都市行政のやり方では、とかく、市民が疎外された政治行政におち入りやすいことから、当然に要請されてきたものといえます。

このうち、「市長に手紙を出す週（旬、月）間」のねらいは、多くは市長への手紙というかたちで、市政への不満や要望、積極的提案をひろく市民に求めることにより、市政と市民との直接の結びつきを図って、より民主的な市政をすすめるひとつの手がかりとするもので、全国市長会の調査（昭和38年8月）によれば、全国の都市中79市で実施されています。そして、それらの方法のほとんどは、期間をきめて要望や意見を自由な用紙で出してもらおうというやり方ですが、なかには、大宮市のように「広聴カード」を広報紙にさしこみ、意見や要望を記入して送ってもらう方法をとっているところもあります。また、これは県ですが千葉県「知事に手紙を出す運動」の例では手紙の用紙を全戸配布したけれども、期間は別に定めていないところもあります。

しかし、いずれの方法をとるにせよ、こ

市民のみなさん、お元気ですか。  
私は一生懸命に市民のための市政を実現したいと努力をいたしておりますが、私のやりはじめている市の仕事が、ほんとうに市民のみなさんのためになるには、みなさんの、市政についてのいろいろなご意見をもとにすることが、一番よいことだと思っています。

そこで誠に勝手ですが、私あての手紙というかたちで、ご指示をいただくことにしました。

市の仕事について、こうしたらもっとよくなる、こうしてほしい、など、どんな小さいことでも結構です。きっと私の気のつかないことを教えていただけるだろうと思います。

どうか遠慮のないお便りをよせてくださるよう、お待ちしております。

みなさんのお力添えで、だれでも住みたくなる横浜をつくっていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

昭和38年11月

横浜市長 飛鳥田 一雄

—「市長への手紙」用紙にのせたよびかけ—

のように都市行政が市民との結びつきをつよめ、地方自治の本旨である住民自治の理念を前向きに大きく推進し、展開してゆこうとする動きは、今后ますます重要視されるだろうし、むしろ、これまで「自治の独占」性にあぐらをかいていた実状からすれば、おそまきにすぎたといえなくもありません。そしてほんとうの民主主義を、市政に、市民の中に定着させる公聴活動の重要性が真剣に考えられなければならないでしょう。

## ② 「市長に手紙を出す旬間」

横浜市では、昨年飛鳥田市長になって以来「市民のための市政」をスローガンに、いろいろ民主的市政の実現につとめてきましたが、その一環として昭和38年11月11日から11月20日までの期間に、「市長に手紙を出す旬間」を実施しました。

### (1) 実施方法と経過

本市でとった方法は、期間を定め、手紙の用紙を全戸配布し、郵送料市負担という方法で、この種のものでは一歩進んだかたちで行なわれたと考えられます。

なお、用紙の配布方法は広報紙の配布網（日通→自治会・町内会→各戸）を利用して行ないましたが、その配布枚数は、362,972枚で、そのほか期間中各区役所の案内所、各区の保健所において、持ち帰られたもの12,789枚を加えると、合計375,761枚になります。

### (2) 集計の内訳

その結果、この期間中に市長に出された手紙は12,692通で、それを区別に分けると第1表のようになります。

そして、その数多くの手紙は、さまざまな意見や切実な要求とともに、市民から積極的に市長との結びつきを求めるといふ気持のあふれた手紙が大半をしめていました。

#### ア 問題別の内容から

「市長への手紙」に書かれた多くの要望を、市の仕事の分類によって内容別に分けてみると第2表になります。（第1表の「その他130通」は、区の記載のないもの、市外からのものであるので除きました。）

この表でみられるように、土木関係が最も多く7,774件、次に市政一般3,171件、清掃関係2,813件で、以上が全件数25,684件の半数以上を占め、具体的な問題からみれば道路舗

装の3,895件が一番多く、つぎに下水施設の整備1,642件、ゴミ収集1,467件、し尿処理1,186件、道路補修1,081件、学校施設760件、市営バス755件、市営住宅741件、水道施設708件等が要望の多いものでした。こういう点からみて、市民の不満が道路、下水、清掃、学校施設、交通、水道、住宅など生活に直結した問題、いわば市民の生活環境の不

第1表 手紙の数（区別）

区	手紙の数 (通)
鶴見	1,354
神奈川	1,409
西	527
中	736
南	1,303
保土ヶ谷	1,980
磯子	590
金沢	607
港北	2,200
戸塚	1,865
その他	130
計	12,692

第2表 手紙の内容別分類

No.	分 類	件数	No.	分 類	件数	No.	分 類	件数
1	一般市政	3,171	31	清 掃	2,813	57	建 築	1,122
2	1 市長 激励 励会	540	32	ごし	1,467	58	市宅 営地 住宅	741
3	2 市市民 集の 意	95	33	の	1,186	59	違反 造建	114
4	3 市市政 針への 岸線	206		み尿	160	60	復そ の 融	105
5	4 市国 鉄根 地番 整理	81		融		61	道	9
6	5 町名 町界 町内 会	120		光	342		道	153
7	6 自治 少 年 問 題	166		査	36	62	水 道	1,090
8	7 市青 少 年 関 係	114		輪	50	63	水 道	241
9	8 市広 報 関 係	238		他	10	64	水 道	708
10	9 市公 報 聴 民	154		農	46		防	141
11	10 市防 犯 の	43		政	200		交 通	1,457
12	11 市防 灯 他	497		融	92	65	市 電	319
	12 市防 他	917		政	12	66	市 電	755
				用	24	67	市 電	383
				業	13		消 防	137
				他	4	68	消 防	137
				融	39			
				政	40			
				用	41			
				業	42			
				他	43			
				土				
				木				
				装				
				修				
				金				
				備				
				他				
				教				
				育				
				設				
				育				
				人				
				他				
				選				
				挙				
				所				
				他				
				区				
				役				
				所				
				事				
				務				
				他				
				そ				
				の				
				他				
				計				
				総				
				計				

備にあらわれ、それらの整備が強く要望されていることが明らかです。

(a) 土 木 関 係

要望の中で圧倒的に多いのは、土木関係のものです。その中でも「道路が舗装していないので雨が降ると長靴がもぐってしまうほど、また晴れた日が続くと、ほこりがひどい。ぜひ舗装してほしい。」という道路の舗装についての要望がその50%を占め、その他道路をなおしてほしいという要望が14%、下水を整備してほしいという件が21%ですが、舗装のみについてみても、第3表にみられるように、要望件数のうち港北区が26%、戸塚区が20%、保土ヶ谷区が18%、鶴見区が10%で以上4区がその大部分を占めていることは

とくに周辺地区における道路事情の悪さが明らかで、また下水についても同様の傾向があらわれています。

(b) 清掃関係

次に多いのは、ゴミの収集やし尿くみ取りなどのことですが、ゴミの収集では、中心地は計画収集がある程度円滑に行なわれているため、不満が少ないが、港北、保土ヶ谷など、近年開発が進んでいる郊外の住宅地に、きわめて問題が多くなっています。

し尿のくみ取りについても同様、苦情は周辺地区の住宅地に多く、農家の手によって処理していただきたいいわゆる自家処理組も、農家がだんだん化学肥料を多く使うようになったための需要減と、あまりにも急激な人口の増加にややもすると処理能力が追いつけないなどの理由から、港北、保土ヶ谷と合せて全体の39%を占めています。(第4表)

(c) 市政一般

市長への激励が540件にのぼっていますが、「市長に手紙を出す旬間」の実施を市長の英断として、賛意を表したものが多く

見受けられました。また、そのほか多いものとしては、近ごろの世相を反映してか防犯灯の設置をのぞむもの497件が目立ちました。

(d) 教育関係

親として一番関心の深い児童教育については、やはり学校施設の改善を望むものが最も一番多く、小学生からも、寒くない教室にしてほしいという願いが、少なからずありました。また、PTAや講堂建設の寄付金の問題もかなりの数にのぼっています。

(e) 交通関係

市電、市バスの時間の厳守、乗務員の態度の是正、郊外地へのバス路線延長・増発等の要望が多く、市民の足の確保はさらに考えられなければならない問題でしょう。

そのほか、中心区では交通地獄の対策について多く出され、また戸塚や新子安のふみき

第3表 土木関係(区別の件数比較)

区別	内容	道路舗装		道路補修		下水整備	
		件数	%	件数	%	件数	%
鶴見		384	9.9	91	8.4	240	14.6
神奈川		340	8.7	84	7.8	126	7.7
西		78	2.1	20	1.9	37	2.3
中		72	1.8	60	5.5	93	5.7
南		250	6.4	145	13.4	147	8.9
保土ヶ谷		705	18.1	210	19.4	287	17.5
磯子		154	4.0	40	3.7	59	3.6
金沢		94	2.4	15	1.4	62	3.8
港北		1,028	26.3	251	23.2	352	21.4
戸塚		790	20.3	165	15.3	239	14.5
計		3,895	100	1,081	100	1,642	100

第4表 清掃関係(区別の件数比較)

区別	内容	ゴミ		し尿	
		件数	%	件数	%
鶴見		129	8.8	94	7.9
神奈川		151	10.3	170	14.3
西		67	4.5	43	3.6
中		78	5.3	32	2.7
南		187	12.7	142	12.0
保土ヶ谷		299	20.4	216	18.2
磯子		61	4.2	31	2.6
金沢		54	3.7	67	5.7
港北		281	19.2	248	20.9
戸塚		160	10.9	143	12.1
計		1,467	100	1,186	100

りなど、とくにその地区で目立った問題でした。

(f) 建築関係

低家賃住宅の建設をのぞむ声が圧倒的に多く、住宅難の解消にはほど遠い感じで、切実な問題として残されているものです。

(g) 衛生関係

ここでは、周辺区で、予防注射や育児指導など保健所業務の出張サービスの強化が望まれています。

(h) その他

市以外の機関に要望する問題が1,394件もありました。これは、交通規制の問題、交番の設置やパトロールのこと、民営のバスのことなど、身近かな問題がやはり多いようでした。

なお、10の区で、どこからどういう問題がどのくらい出されたかを、第5表に示します。

第5表 市長への手紙（区別の内容）

内容	鶴見	神奈川	西	中	南	保土ヶ谷	磯子	金沢	港北	戸塚	計
市政一般	388	324	164	234	357	483	181	126	453	461	3,171
財政	65	62	29	52	71	100	26	20	106	77	608
民生	78	100	46	71	61	89	33	46	91	92	707
衛生	191	172	65	111	116	176	78	32	146	128	1,216
清掃	243	348	124	128	348	528	105	132	547	310	2,813
経済	38	51	27	40	45	39	15	18	33	37	342
農政	1	3	—	2	4	11	2	1	59	9	92
土木	813	691	176	291	641	1,368	324	227	1,820	1,423	7,774
計画	155	125	67	125	114	125	127	39	142	262	1,281
港湾・埋立	9	8	13	39	15	16	14	16	14	6	150
建築	165	157	34	57	135	157	53	136	123	105	1,122
水道	52	83	34	41	82	221	40	50	304	183	1,090
交通	91	161	117	163	184	215	86	19	156	275	1,457
消防	4	22	4	9	26	26	3	2	20	21	137
教育	212	187	74	71	151	261	62	66	403	226	1,713
選挙	14	11	2	7	14	17	8	3	19	22	117
区役所	100	51	30	28	48	54	23	16	83	67	500
その他	123	194	69	52	113	249	118	38	245	193	1,394
計	2,742	2,750	1,075	1,521	2,525	4,135	1,295	987	4,764	3,887	25,684

イ 階層別の内容から

(a) 男女別

いただいた手紙の内容を性別に分けますと総件数25,684、件のうち男の方から18,013件、女の方から7,462件で、男性の内容は多い順から土木、市政一般、清掃、交通、教育で、女性の内容は土木、清掃、交通、教育の順となっており、土木（道路や下水）についての要望が多いことは共通していますが、女性の要望、意見が清掃、教育に多いことは、主婦として、また母親としての関心のあり所を端的に示しているといえるようです。（第6表）

(b) 職業別

勤労者が13,439件で半数以上を占め、生活向上への欲求を、身近かな不満のかたちで、市長にたいし遠慮なくのべていることも、充分注目に値します。（第6表）

第6表 男女別・職業別の分類

区分 内容	総数	男女別内訳			職業別内訳			
		男	女	不明	経営者	勤労者	主婦	その他
市政一般	3,171	2,416	730	25	394	1,733	474	570
財政	608	454	145	9	82	335	110	81
民生	707	399	303	5	52	292	177	186
衛生	1,216	753	455	8	117	531	357	211
清掃	2,813	1,688	1,097	28	211	1,347	842	413
経済	342	248	94	0	51	173	69	49
農政	92	83	8	1	39	25	4	24
土木	7,774	5,603	2,108	63	1,033	4,114	1,432	1,195
計画	1,281	969	301	11	165	670	210	236
港湾	78	70	6	2	8	59	2	9
埋立	72	55	17	0	10	39	9	14
建築	1,122	768	345	9	64	682	240	136
水道	1,090	822	260	8	184	541	168	197
交通	1,457	1,124	318	15	125	955	181	196
消防	137	107	30	0	9	80	25	23
教育	1,713	1,067	635	11	210	777	462	264
選挙	117	83	34	0	5	69	25	18
区役所	500	352	142	6	41	280	106	73
その他	1,394	952	434	8	133	737	277	247
計	25,684	18,013	7,462	209	2,933	13,439	5,170	4,142

(c) 年令別

年令からみると30才～39才が8,110件で31%を占めており、この年令層が市政に強い関

心をもっていることが、うかがわれます。(第7表)

第7表 年令別の分類

内 容 \ 年 令 別	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	不 明	計
市 政 一 般	83	451	935	682	504	454	62	3,171
財 政	3	83	192	150	169	57	14	608
民 生	14	100	226	115	104	131	17	707
衛 生	22	182	424	228	167	162	31	1,216
清 掃	34	376	948	582	476	335	62	2,813
経 済	5	56	107	78	58	35	3	342
農 政	0	3	26	25	23	18	3	92
土 木	107	877	2,311	1,753	1,439	1,087	200	7,774
計 画	41	170	419	253	218	159	21	1,281
港 湾	2	13	21	17	16	8	1	78
埋 立	3	8	29	9	6	14	3	72
建 築	19	215	385	223	168	97	15	1,122
水 道	4	143	333	235	196	157	22	1,090
交 通	37	223	474	290	241	163	29	1,457
消 防	1	12	49	28	16	27	4	137
教 育	80	203	635	408	229	131	27	1,713
選 挙	0	18	34	30	17	18	0	117
区 役 所	4	68	160	122	77	61	8	500
そ の 他	42	203	408	281	244	179	37	1,394
計	501	3,404	8,110	5,609	4,308	3,293	559	25,684

### ③ あ と が き

以上「市長への手紙」を、その集計をもとに、いわば量的な面にのみ着目して、ごく大まかに検討をしてみました。問題は、今後これらの手紙と、そこに盛り込まれた多くの意志と課題について、質的な検討を加え、市民の要望をいかにとりいれ、実現化するかがより重要であろうと考えます。

ただ、これまでの検討ではっきりいえることは、これらの手紙にもられた意見、要望の数多くが、道路なり清掃、下水のような毎日の市民生活にもっとも直結した問題であり、都市としての基本的な諸施設に出されているということは、これまでの、横浜市の施策の方向が大資本優先、工業都市化というかたちのみにいそがれ、住民の日常生活をとりまく環境の整備が、著るしく圧迫されている現状のあらわれで、「住みよい町づくり」が市民から強く要望されていること、すなわち、うらがえしているならば、地方自治体の施策の展開が何を基軸になされねばならないかを、ここにあらためて、わたしたち自治体関係者は、充分心に銘記する必要を痛感したことです。(総務局主査)